

大阪府教育委員会教育長 様

大阪府立堺工科高等学校  
准校長 中田 浩史

学校経営推進費 事業計画書

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

取り組む課題	D 生徒の自立支援
評価指標	・生徒の自己有用感、挨拶、マナー、コミュニケーション能力、職業観等の向上（学校教育自己診断） ・ボランティア活動に対する意識の向上 ・中途退学率の減少、不登校生徒の減少、進級卒業率の向上
計画名	地域連携による復興支援プロジェクト

2. 事業計画の具体的内容

学校経営計画の 中期的目標	2 生徒理解の促進と自己有用感を高める取組みの強化 (2) 特別活動、生徒会活動、部活動等を通じて、生徒の自己有用感を醸成するとともに集団や学校への帰属意識を高める。 ア 生徒会行事、生徒の自主活動、ボランティア活動や地域連携活動の継続、発展をめざす。 ※地域・企業等と連携した「ゆめ・チャレ」等の就労体験活動のさらなる発展充実、参画企業と動員生徒を毎年5%拡張		
事業目標	本校生徒は全体的に自分に自信がもてず、コミュニケーション能力が低い。また、基本的な生活習慣が身につかず、進級している。 ・卒業率、中途退学率が増加しているのが現状である。 ・伝統地場産業を学び、「ものづくり」を通じて地域に誇りを持ち、自分にも誇りを持つ。 ・地場産業を通して学校外で様々な職業体験をし、基本的な生活習慣を身につけ、コミュニケーション能力等をつける。 ・ボランティア活動に積極的に参加し、他者から感謝されることにより自己有用感を持つ。 ・被災地支援により得た知識を活かし、地域の防災活動の拠点となり、自助・共助・公助の精神を養う。		
取組みの概要	整備する 設備・物品 (概要)	・復興支援用材料費（線香・打ち刃物） ・復興支援記録用ビデオカメラ・デジタルカメラ ・バイオディーゼル発電機一式 ・電気自動車一式 ・ドローン一式	
	取組内容	前年度	「東北支援プロジェクト」を立ち上げ、「堺学」の授業で作成した「包丁」と「お線香」・「義援金（お線香などの売上金等）」を被災地を訪問して寄贈している。生徒が被災地に訪問し、感謝されることにより、自己有用感が高まり、学校に居場所をみいだした。また不登校生徒が減少し、進級・卒業率やボランティアに対する意識も向上した。時事通信社「教育奨励賞優秀賞」受賞（文部科学省後援）・「読売教育賞最優秀賞」。また、「ゆめ・チャレ」は本校生徒の自立支援に大いに貢献した（文部科学省・経済産業省から優秀賞受賞）。これらの取組みをさらに発展・充実させることが課題である。
		初年度	前年度の課題である「取組みの充実と発展」のために、「東北支援プロジェクト」から「復興支援プロジェクト」として支援の輪を広げ、熊本県等の支援も視野に入れ活動する。被災地との情報交換を密にし、一人でも多くの生徒をプロジェクトに参加させる。寄贈する「お線香」と「包丁」の数を増やす。また、廃油を使って発電する機械（大阪府下の高校の食堂等で処分している油を使用すればウイン・ウインの関係になる）を製作・改良して、地域の防災活動と被災地（電気が使えない車中泊等）での活用をめざす。
		2年目	初年度より支援の輪を広げ、生徒会活動部を中心に生徒が主体的にプロジェクトに取り組む。以前から交流のある宮城県農業高校や被災地の他の高校との「コラボ線香」等を製作し、高校生による支援活動を全国に広める。同世代の活動なので、本校生徒は被災地の高校生の状況をより深く理解し、ボランティアに対する意識がさらに向上し、本校生徒の自立支援につなげる。また、今までに寄贈した「包丁」の「研ぎ直し」のために生徒とともに被災地を訪れ、「自己有用感」を高める。
		3年目	従に加え、震災等を風化させない活動も充実させ、自然災害について考える「エコ・プロジェクト」を立ち上げ、「電気自動車」製作、「バイオディーゼル発電機」増産をする（有事の際の電動車椅子・スマートフォン等の充電）。また、「ドローン」の撮影による避難経路図の作成等、地域とともに、自然災害等に対応出来る体制を作り、「定時制」ならでは「夜の避難訓練」を行う。プロジェクト参加生徒の増加により支援先・寄贈品の増加が見込まれ、生徒の自己有用感も高まり、結果として中途退学率の減少、不登校生徒の減少、進級卒業率の向上につなげる。
取組みの 主担・実施者	プロジェクトリーダー：保首席（進路指導主事兼任・学校設定教科「堺学」主担） 復興プロジェクト企画・運営：学校設定教科「堺学」担当教員 地域（自治会・小中学校等）との連携推進：進路指導部 生徒に対する諸活動：生徒会活動部 廃油発電機・電気自動車作成及び改良：機械系・電気系職員		
成果と 評価 検証 方法	初年度	・「学校へ行くのが楽しい」「この学校には他の学校にない特色がある」「地場産業について学び、体験する機会が多い」（学校教育診断）60%以上 ・退学率11%台の維持、1年生の進級率（60%以上）、学校全体の進級卒業率（70%以上） ・全プロジェクトへの参加生徒40% ・1年次復興支援プログラム作成・実施	
	2年目	・「学校へ行くのが楽しい」「この学校には他の学校にない特色がある」「地場産業について学び、体験する機会が多い」（学校教育診断）65%以上 ・退学率10%台の維持、1年生の進級率（65%以上）、学校全体の進級卒業率（75%以上） ・全プロジェクトへの参加生徒45% ・1年次復興支援プログラムの改良と2年次プログラムの作成・実施	
	3年目	・「学校へ行くのが楽しい」「この学校には他の学校にない特色がある」「地場産業について学び、体験する機会が多い」（学校教育診断）70%以上 ・退学率9%台の維持、1年生の進級率（70%以上）、学校全体の進級卒業率（80%以上） ・全プロジェクトへの参加生徒50% ・復興支援プログラムの完成	

## 3. 事業費

事業費総額	1,429,800	円
-------	-----------	---

## 積算内訳

* 決算科目(節)を明示し、節毎に積算内訳を記載すること。			見積に基づく清算			実勢価格に基づく積算		
科目(節)	番号	内訳	1年目	2年目	3年目	単価	数量	金額
1 報償費	1							
	2							
	3							
							小計	
2 旅費	1	復興支援航空運賃・宿泊費・交通費	○			¥85,000	2	¥170,000
	2	復興支援航空運賃・宿泊費・交通費		○		¥85,000	2	¥170,000
	3	復興支援航空運賃・宿泊費・交通費			○	¥85,000	2	¥170,000
							小計	¥510,000
3 消耗需用費	1	包丁材料費用・刃				¥1,080	50	¥54,000
	2	包丁材料費用・柄				¥216	50	¥10,800
	3	包丁材料費用・箱				¥864	50	¥43,200
	4	ビデオカメラ				¥44,800	1	¥44,800
	5	ドローンバッテリー				¥20,000	1	¥20,000
							小計	¥172,800
4 維持需用費	1							
	2							
	3							
							小計	
5 役務費	1							
	2							
	3							
							小計	
6 委託料	1							
	2							
	3							
							小計	
7 使用料 及び賃借料	1							
	2							
	3							
							小計	
8 備品購入費	1	バイオディーゼル発電機一式(改良費等含む)				¥508,000	1	¥508,000
	2	ドローン本体				¥239,000	1	¥239,000
	3							
							小計	¥747,000
9 工事請負費	1							
	2							
	3							
							小計	
10 負担金・補助 及び交付金	1							
	2							
	3							
							小計	
							合計	¥1,429,800